

桑名市地域医療対策連絡協議会第3回地域医療提供体制部会

平成23年2月9日（水）

【事務局】 皆さん、こんばんは。それでは、時間になりましたので、ただいまより、第3回地域医療提供体制部会を開催いたします。

委員の皆様におかれましてはお忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

高瀬委員につきましては、所用のため、本日は欠席となっております。

第1回、第2回では、桑名・員弁地域における医療の現状、課題等、また、桑名地域の医療を考えていく上で最も重要なことは何か、また、どういった診療機能を持った病院が必要であるかということをご議論いただきました。

本日は、第1回、第2回のご議論を桑名市地域医療対策連絡協議会地域医療提供体制部会提言書（案）としてまとめさせていただいております。

それでは、お願いいたしますけど、会議に入ります前に資料の確認だけをさせていただきます。

第3回地域医療提供体制部会次第、桑名市地域医療対策連絡協議会地域医療提供体制部会提言書（案）、本日追加させていただきました資料1でございますけど、三重県地域医療再生計画（拡充部分）の策定と今後のスケジュールでございます。以上でございますけど、よろしいでしょうか。

それでは、会議の進行を議長の青木部会長によりしくお願いいたします。

【部会長】 本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

それでは、早速会を始めさせていただきます。

先ほど、案内にありました本日の資料におきまして、提言書の案というのが前もって配らせてあるんですけども、皆さんはお持ちでしょうか。持っていない方はみえませんか。よろしいですか。

それでは、議題に入りたいと思います。まず、地域医療提供体制に関する提言について、事務局のほうからお願いします。

【事務局】 提言書（案）についてご説明を申し上げます。

まず最初に1ページをごらんください。

「はじめに」で、本部会は、桑名市における地域医療体制等の諸問題について検討する桑名市地域医療対策連絡協議会の下部組織として、医師・看護師不足や救急医療をはじめとする医療提供体制の確保などの課題について、解決のための具体的な方策を議論し、提言するために設置されている。このたび、3回にわたる議論を経て協議が整ったので、必要な方策などについてここに提言すると上げております。

次に、「1. 桑名市の地域医療の現状」では、一次医療、二次医療、三次医療のそれぞれの現状と救急医療の現状、また、地域医療全体の現状としまして、桑名市における医師・看護師の不足が顕著であり、提供する医療を現状よりも充実させることが困難になっていると記述をしております。

2ページをごらんください。

次に、「2. 桑名市の地域医療における課題」では、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、また、小児医療、周産期医療におけるそれぞれの課題を上げております。

次に、「3. 課題解決のための方策」では、2で上げた課題を解決するための最も有効な方策は、市内の医療機関のうち、病床数、医師数や救急搬送件数において上位を占め、かつ、類似の診療科を有し、地域の二次医療において大きな役割を果たしている桑名市民病院と山本総合病院が再編統合することであるとして、そのメリットを上げております。

3ページをごらんください。

次に、「4. 再編統合後の病院に必要な診療機能」では、再編統合後の病院には、いわゆる4疾病5事業のうち、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、救急医療、災害医療、周産期医療及び救急医療を含む小児医療に対し、二次医療機関として対応できる診療機能が必要であるとして、それぞれ具体的に必要な診療機能を記述しております。

次に、「5. 再編統合に係る解決すべき課題」では、新病院を設置するとか、既存施設を利用するとか、立地、また、ソフト面について、病院風土の融合、再編統合後の病院の運営には赤字体質を招かない経営努力が常に求められることを上げております。

最後に、4ページをごらんください。

最後に、「まとめ」では、本部会は、桑名市における医療提供体制の現状と課題について、二次医療を提供する上で基幹となる病院がないこと及び医師不足が顕著であることを上げ、その課題解決の方策として、桑名市民病院と山本総合病院の再編統合を提言する。行政、地域住民、医療関係者それぞれが、桑名市の医療が置かれた危機的状況について理解して

いただき、救急医療をはじめとする二次医療に対する理解、医師の継続的な派遣など、それぞれの立場からの支援により、地域医療体制の整備と充実が進められることを強く希望するとまとめをしております。

以上でございます。よろしく申し上げます。

【部会長】 ありがとうございます。

今まで2回、この会を開かせていただきまして、ここで皆様から幅広い意見をいただき、それをまとめ上げまして、前もって皆様のところには送らせていただきました。今の提言書（案）につきまして、何か、ここがちょっと違うとか、こういうことをつけ加えたらいいのではないかとか、ご意見はございませんでしょうか。

それでは、よろしければ、この部会の親会でもあります桑名市地域医療対策連絡協議会が2月28日に開催される予定であります。今の提言書を、部会代表といたしまして私も出席させていただいて、親会の会長の山本副市長のほうに提言をしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

続きまして、次第のその他に入りますが、事務局、何かありますか、その他。

【事務局】 本日、追加でお配りしました資料1の説明をさせていただきたいというふうに思います。

三重県地域医療再生計画（拡充部分）の策定と今後のスケジュールについてご説明をさせていただきます。

資料1をごらんください。

三重県地域医療再生計画についての事業概要でございますが、国が、都道府県が策定する地域医療再生計画に基づく事業を支援するものでございまして、対象地域は、都道府県単位、三次医療圏でございまして、対象事業は、地域の実情に応じ、自由に事業を決定することとしております。

計画期間は平成25年度までとされ、予算総額は2,100億円で、内訳としまして、15億円が52地域、また、追加額が1,320億円でございます。52地域の計画のうち、新成長戦略に資する高度専門医療機能を担う医療機関の整備拡充などを伴う大規模事業のケース加算をするものでございます。

また、計画の評価、助言は、厚生労働省に設置する有識者によります会議で決定されます。

この計画を県が国に上げる前段階としまして、県による本地域に対するヒアリングが今

月15日火曜日に実施されます。これは、桑員地域の現状、課題、方策などを記述しました桑員地域における地域医療体制の再構築について20分程度のプレゼンを行い、その後、三重県地域医療対策部会の委員の皆様方から質疑を受けます。

今回の臨時交付金の交付決定までのスケジュールにつきましては、資料に記述しましたとおりでございます。

次に、今後のスケジュール予定でございますけど、平成23年度には、地域医療再生計画の提出、また、新病院の基本構想の策定、平成24年度には、新病院の建築基本設計及び実施設計を行い、平成25年度には、新病院建設工事着手といったスケジュールを予定しております。

以上でございます。

【部会長】 ありがとうございます。

今回、今説明させていただきました三重県地域医療再生計画というのが出てまいりまして、要するに補助金を使わせていただけるかもわからないということが出てまいりました。今回3回目になります両病院の統合問題は、このことがあったから決して起こってきたわけではなく、必要性を感じて3回目をやろうということが先に起こりまして、途中でこういうものが出てきたというのが経過でございます。

先ほど説明がありましたが、はっきりわかりませんが、今回、この再生計画のほうから、うまくいけば幾らぐらいおりと考えられていますか、事務局は。

【事務局】 国のマニュアルからいきますと、最大限120億という1事業に対する支援があるわけですが、これは、最終的に県がまず、三重県自体が全体として、三次医療圏は三重県全体ですもので、その中で、桑名地域はどうなんやと、東紀州のほうはどうなんだと。それとか、疾患別のほうはどうなんだと、ここら辺を含めて三重県がまず国のほうへ申請しますので、三重県のまた計画の中で決定されてくるものだと思います。ただ、最大限は、マニュアルにあるように、1事業120億というのがアッパーになっております。

【部会長】 幾つか同じような補助金の申請は県内にあるわけですね、そうすると。

【事務局】 実は、1月31日に私どものヒアリングも予定されておりましたけれども、2月15日に延びたんですけれども、1月31日に東紀州地域で、紀南病院と、それから、尾鷲病院のヒアリングがございました。ですから、うちと同じようなケースについては、今のうちを含めて3事業が該当しているのではないかというふうに理解しております。

【部会長】 120億、3事業全部通ったとしましても40億。かなり巨大なお金がおりにくると。まあ、そううまくいかないかもわかりません。多分、10億以下とか、そんなことにもなるかもわかりませんが、どちらにしても、かなり大きなお金になるということとは間違いないということです。

それで、今回の合併に関しましてかかる費用というのは、10億では到底済むものでもありませんし、500億かかるものでもないと思いますが、100前後かなと私は考えておりますが、そのうちで40億もおりるものであれば、かなり効果のある補助金、10億でもかなり効果のある補助金になると思われま。

その中で、この補助金をとるために、先ほど説明しました、2月15日火曜日にヒアリングというのがあります。事務局をはじめ、親会のほうと、この会からは医師会のほうも出させていただきますので、そこでヒアリングを行うことになっているんですが、それがうまくいくとそれがおりてくるということになります。それがうまくいくかどうかというのはいろいろ問題がありまして、この第2回の会が11月18日に行われたと思いますが、それから、今回説明しました400床の病院ができて、どういう内容があるかということを示してまいりましたが、一番大切なのは、その中に集まる医師、医療関係者がどれぐらい来てもらえるのかということ、これが一番関係あるんですが、その辺に関しましては、事務局、今のところの見通しというのはどうなっていますか。医者数。両病院の数をプラスしたのが、1足す1が2になるのか、1.5になるのか、3になるのか、その辺の予想というのは何かありますか。

【事務局】 特段そこまでまだ。お願いはしておる状況で、できれば多いほうが良いというような認識でおります。

それと、先ほどちょっと私、つけ加えるのを忘れましたが、アッパー120億で補助は2分の1になっておりますので。申しわけございません。

【部会長】 まだその辺が進んでいないということですが、今回のヒアリングに関しまして、県のほうの漏れ聞くところによりますと、三重県内で、前回、伊賀と上野の合併の話がありまして、そこに補助金がついたわけですが、結局合併できなかった。そのことが県としては一番困った問題になっておるということです。今回、そういうことがないように、必ずこの2つが合併できるようにこの部会で強力に推し進めていきたいと思うんですが、両病院の合併というのはどの程度進んでおるのでしょうか。もう合併の合意ができておると考えていいのでしょうか、事務局。

【事務局】 今現在、合併に向けて、市としましては、12月補正でそれについての調査費を計上させていただいて、この調査を進めさせていただいているのと、平行しまして、山本総合病院さんとは、事務局レベルで、もう20回程度の打ち合わせもやりながら、確認書というようなものについて若干取り交わしている状況でございます。

ですから、3月をめどにこの調査が完了しますので、その時点では明確にして進めたいと思っています。

【部会長】 先ほども言いましたが、両病院の合併が、補助金もおりて決まったということになったにもかかわらず、やはりできなかったとなると、もう今後、この合併はあり得ないと考えていいのではないかと思います。

現在の進行状況を、オブザーバーでみえておられます山本総合病院の院長先生なり事務長さん、ほぼ同意に近い状態だと考えてよろしいでしょうか。

【オブザーバー】 はい。足立院長ともお話をしまして、積極的にこれはやっていかないかと。逆に言えば、この補助金がとれないと、この会からも、まとめにも書いてありましたけど、何をもちて医者を集めるかというのは、やっぱりすばらしい病院が建って、すばらしい設備が建って、1足す1が2になる、2.5になる可能性が出てくると私は思っていますので、今ある施設を利用するなんていうふうな方向へ行ったときには、おそらく、多分、文化の違う病院が一緒になったことの弊害のほうが大きく出るんじゃないかと私は思っています。

【青木部会長】 合意に関しては、ほぼ合意に近いと考えてよろしいですか、この会としては。まだ決定ではないんですよね、合併は。

【オブザーバー（岡田）】 そうですね。臨床のレベルで合意しております。

【部会長】 それと、もう一つ大きな問題は、この提言書でもありますように、両病院が一緒になったときに、果たして独立採算できるかという問題です。今までに私たち医師会もいろいろ調査をいたしまして、東北の病院、北海道の病院で同じようなことをして大きな病院をつくって、結局採算がとれずにつぶれてしまった病院がございます。その辺に関しまして、赤字を出さないような方策はどの程度今進んでいますでしょうか。事務局、お願いします。

【事務局】 病院のほうから直接お答えいただいたほうが。

【部会長】 わかりました。それじゃ、まず、両病院の先生方、事務長でも結構ですけども、どういう対策をとられていますか。市民病院の方、お願いします。

【オブザーバー】 経営状況につきまして、平成21年10月から独立行政法人化になったんですが、まず、21年度の決算につきましては、予想外に経常収支比率がよくて、経常収支比率100を超えています。現在、22年度につきましては、もう残り2カ月を切れておるんですけども、このままの状況でいきますと、前年度に続いて経常収支比率100は超える予想となっております。したがって、経営的にはいい方向に向かっているというふうにご理解いただければいいかと思っております。

以上でございます。

【部会長】 山本総合病院さんはどうでしょうか。

【オブザーバー（奥村）】 今、院長が言いましたように、医療的にはもちろん合意という方向ですけど、我々は事務方でございますので、財務的な問題につきまして、いろいろそういう業況のことも詰め合わせをさせていただいているところです。結局、新しい病院ができたときの病院の経営効率のことに触れなくて、再編統合というものの実現はないということを考えています。今、水野事務長さんがおっしゃられたように、市民病院の単体での業績、それから、山本総合病院の今現在の単体の業績、これをとりあえず合算してどうなるのか、合併による効果といいますか、そういうシナジー効果がどうなるのか、そういうところについて十分練り合わせをしていく、今、そういう段階になっております。しかし、やっぱりそういうふうな、青木先生がご指摘されるような経営効率がきっちりと実現できるような病院をつくるにはどういうふうにすればいいか、こういう打ち合わせを目下一生懸命やっておるところでございます。

【部会長】 今回統合される病院は、個人の病院と独立行政法人の病院と、2つが合併される非常に珍しい例であります。ただし、桑名の地域にとりましては、単なる個人病院ができるわけではなくて、やはり公的な病院の性格も持っていたかかないと困ると思います。ですから、採算性は重要だという話はいたしました。採算のとれない部分においてもしっかりやっていたかかないと桑名の地域では成り立たないのではないかと思います。前にも、第1回のお話しましたが、赤字は出さないようにしてほしい。しかし、不採算部門をやって、十分に努力をされた上で不採算部門を抱えたために赤字になるのであれば、この会としては大いに進めていきたいと考えますが、そういう考え方で委員の皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、一応、今の2点につきまして、今後とも両病院の先生方、事務局、よろしくお願いいたします。

それでは、今回の議題は以上ですが、事務局、あと何かありますか。

【事務局】 今後のこの部会につきましては、先ほどの再生計画のスケジュールの説明の中でもご案内させていただきましたが、県が国に地域医療再生計画を提出します。その期限が今年の5月となっております。その間にも、三重県のほうから、地域の関係者のご意見とかお考えなどについてもヒアリング等があると思います。そういった際には、この部会におきまして、またご意見をちょうだいしたいというふうに思っております。そういった事態が発生したときには、部会長を通じまして皆様のほうにご連絡をさせていただきます。また改めて会を開かせていただきたいというふうに考えておりますので、その節はよろしく願いいたします。

以上でございます。

【部会長】 ありがとうございます。

今お聞きのように、一応第3回で終わるような予定をしておりましたが、今後の進行具合によりましては、また委員の皆様方の貴重な意見をいただかなきゃいかんようなことが出れば、4回目、5回目をまたやらせていただく予定でありますので、お忙しい中大変ですが、よろしく願いをいたします。

それでは、予定の3回を終わりましたので、最後になりましたが、山本副市長、何か最後にご意見とかはありますか。

【オブザーバー】 10月からの開催で3回ということでした。集中的にご議論いただきまして、まことにありがとうございます。おまとめをいただきましたように、この地域におきましては、二次医療の基幹病院となる急性期病院をつくっていくというのは悲願でございまして、今回おまとめをいただきました内容を踏まえまして、今後、両病院の統合等につきまして不退転の決意で進めていきたいと思っておりますので、今後ともいろんな意味でご協力いただければというふうに思っています。

今回、一たん区切りということでございますけれども、また必要がございましたらご議論をお願いすることがあるかと思っておりますので、その際、またどうぞよろしく願いいたします。

どうもありがとうございます。

【部会長】 それでは、委員の方、最後になりましたが、ご意見、よろしいでしょうか。

【委員】 この場で言うことじゃないかもしれないんですけど、今後、スケジュールがこのとおりに進んでいって、来年度、23年度ですね、新病院の基本構想の策定というこ

とがあるんですけど、今まで、あり方委員会とか、さまざまな審議される場があったんですけども、どちらかというと、ドクター、お医者さんの主導でいろんな会議が持たれている傾向があって、私は個人的にも看護職で、やっぱり病院というのは多くのいろんな職種の方たちで成り立っている中で、どうしてもやっぱり経営となるとお医者さん主導でなってしまうのかなと思いつつ、ちょっとその辺がすごく複雑な思いでして、今後、基本構想を策定する中で、幅広く医療職を入れながらやってほしいなという希望があります。それと、やっぱり看護師というのは、経営という部分では、お医者さんに比べると、お医者さんの指示を得ながらやってきたという歴史があるので、経営というものには、ものすごくマネジメント能力という部分では乏しいと思うんですね。今後、赤字を出さないというようなすごい課題があるんですよ。その中で、多くの、末端までの職員がそういう意識を持って経営していかないと、この事業は成功しないと思うんです、すごく浅はかかもしれませんが。そういった意味でも、幅広く医療職を基本構想の中では入れながらやっていく、職員の啓発というか、そういう部分も含めて、そういうことを提言させていただきます。

【部会長】 どうも貴重なご意見、ありがとうございました。

今後、両病院の合併が決まりましたら、両病院が1つになって準備委員会みたいなものができると思いますので、ぜひそこで今の意見を生かしていただきたいと思います。

ほかに、委員の皆様方、ご意見ありませんでしょうか。

では、本日はほんとうにありがとうございました。これで閉会させていただきます。

【事務局】 どうもありがとうございました。

— 了 —